# 北海道文教大学こども発達学科

# チャレンジド教室（きょうしつ）

**こども発達学科の学生といっしょに活動しましょう！**
**みなさんにお会いできるのを楽しみにお待ちしています!!**

○ 活動場所：北海道文教大学7号館1階 保育演習室2
○ 活 動 日：金曜日16:30～17:30

取組６

## 障害者の学びを支援する人材の育成に資する研修の実施

本取組の着実な推進のためには、地方公共団体の職員をはじめ、多くの関係者の理解が必要なことから、地域連携コンソーシアム会議の構成団体からも協力を得て、オンライン形式で行う入門講座、各地域を巡回して行うキャラバン隊、新たな取組を開始する団体へのスタートアップ支援学習会を実施した。

### １　障害者の学びの支援入門講座

○趣　　旨

障害者の生涯学習に関する取組の実態把握や、障害についての理解促進のため、有識者による全道各地での講演、先行的な実践事例の発表及び意見交流等を通して、本事業における社会教育をはじめとした関係者の今後の取組を推進する上での機運醸成や、学びを支援する人材の育成を図る。

○内　　容

講義、実践紹介、演習

### ２　障害者の生涯学習理解促進キャラバン隊

○趣　　旨

有識者による講義や実践紹介等を通して、地域で障害者の学びを支える学習支援者やボランティア等の、学びに関する基本的な視点や考え方についての理解を深める。

○内　　容

講義、実践紹介、演習、体験活動

### ３　スタートアップ支援学習会

○趣　　旨

学校卒業後の障害者の学びの機会拡充に向けた取組の開始や拡充を検討する団体の職員が、必要な専門的知識や技術について学ぶ学習会や取組を実施する上での悩みを解決する相談機会を設けることで、団体等のスタートアップを支援する。

○内　　容

説明、講義、相談・助言

### ４　社会教育主事講習において、「特別な支援を要する人への学習支援（生涯学習支援論）」の講座科目の設定を依頼

障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業「障害者の学びの支援入門講座」事業報告書

Ⅰ　事業の概要

1　事業名

障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業「障害者の学びの支援入門講座」

2　開催日時・プログラム

全５回シリーズ

| | | |
|---|---|---|
| 1 | オンデマンド受講 | 講　　義「障害者の生涯学習の現代的な意義」<br>特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター<br>理事　宮　﨑　隆　志　氏 |
| | | 説　　明「国や道の動向」「道教委による調査研究の結果を受けて」<br>北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課 |
| 2 | 10 月 19 日（木）<br>15:00～17:00 | 講　　義「持続的な学びと余暇活動充実の重要性」<br>北海道教育大学札幌校　教授　安　井　友　康　氏 |
| | | 実 践 紹 介「障害者の生涯学習の実際①」<br>いっしょにね！文化祭実行委員会　事務局長　杉　澤　洋　輝　氏<br>札幌ノースウィンド　代表　岩　﨑　圭　介　氏 |
| 3 | 10 月 26 日（木）<br>15:00～17:00 | 講　　義「地域との連携によるウェルビーイングの実現」<br>父親ネットワーク北海道　事務局長　吉　岡　亜希子　氏 |
| | | 実 践 紹 介「障害者の生涯学習の実際②」<br>北海道教育庁関係教育局社会教育指導班 |
| 4 | 11 月２日（木）<br>15:00～17:00 | 講　　義「ニーズを踏まえた事業実施に向けて」<br>北海道医療大学　教授　志　水　　幸　氏 |
| | | 実 践 紹 介「当事者が参画する取組の実施に当たって」<br>医療法人稲生会学びのディレクター　松　井　翔　惟　氏 |
| 5 | 11 月９日（木）<br>15:00～17:00 | 講義・演習「障害者の生涯学習支援のあり方について」<br>特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター<br>理事　宮　﨑　隆　志　氏 |

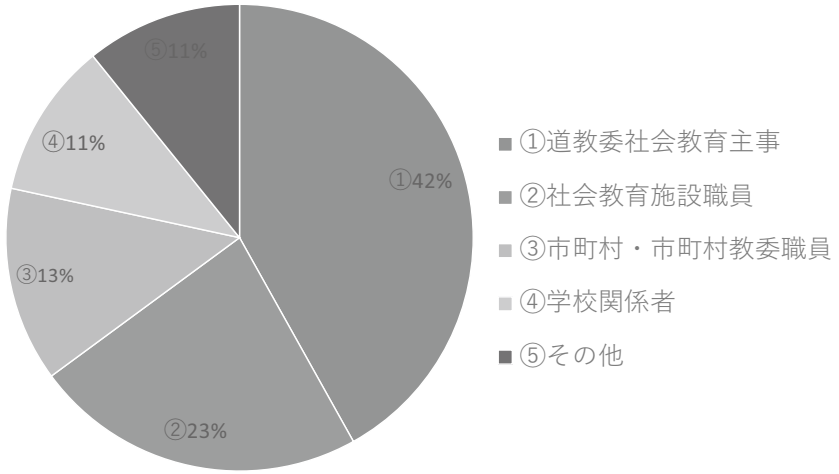
3　開催場所

オンライン（Ｗｅｂ会議システムＺｏｏｍ）※一部、オンデマンド配信あり

4　参加人数

74 名（接続端末数 67）

5　参加者の内訳



Ⅱ　講座の内容

(1) 講義「障害者の生涯学習の現代的な意義」

①講師：特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター
理事　宮　﨑　隆　志　氏

②内容：ア、社会教育・生涯学習の役割　イ、障害者の生涯学習に取り組む必要性
ウ、障害者の生涯学習の課題

障害者の生涯学習に取り組むに当たって、障害者と共に学ぶ社会を創ることができなかった社会教育・生涯学習振興の在り方を問い直し、個人が互いの尊厳を認めながら対話と協働を繰り返す共生社会を創る活動の重要性について強調されました。

(2) 説明「国や道の動向」「道教委による調査研究の結果を受けて」

①説明：北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

②内容：ア、背景と現状　イ、北海道の状況　ウ、市町村（地域）に期待される取組　等

道内各地の障害者の学校卒業後の学びの現状や支援を行う上での課題、道教委が開催する地域連携コンソーシアム会議の議論をもとにした、道教委の取組などについて説明を行いました。

(3) 講義「持続的な学びと余暇活動充実の重要性」

①講師：北海道教育大学札幌校　教授　安　井　友　康　氏

②内容：ア、障害者が余暇活動に参加する意味　イ、関連の権利や法律の内容
ウ、ノーマライゼーションの実現と障害者の生活の国際動向　等

障害者が余暇活動に取り組むことの重要性について、障害者の権利条約の内容を紐解きながら、考えました。また、先進的な取組を行うドイツの事例が紹介され、障害者の学びの環境を地域に作る重要性について理解を深めました。

(4) 実践紹介「障害者の生涯学習の実際①」

①実践紹介者：いっしょにね！文化祭実行委員会　事務局長　杉　澤　洋　輝　氏

②内容：ア、地域メディアと発信　イ、「いっしょに、ね」の精神
ウ、いっしょにね！文化祭への歩み　エ、ますます広がる「いっしょに、ね」

障害の有無にかかわらず、誰もが参加できる、「いっしょにね！文化祭」の理念や経緯、具体的な内容等の紹介がありました。出された課題に対して、どのように解決していったか説明され、障害者と健常者が相互に理解することの重要性が強調されました。

(5) 実践紹介「障害者の生涯学習の実際①」

①実践紹介者：札幌ノースウィンド　代表　岩　﨑　圭　介　氏

②内容：ア、ケガをする前の自分と今の自分　イ、環境と心境の変化
ウ、20 年目で掴んだ感覚　　エ、20 年振りに再会した自分に教わったこと

障害を負ってからの心境に大きな変化があったことや、車いすバスケットボールとの出会いが日々の生活に潤いを生んでいることが紹介されました。障害当事者の実体験を通して、障害者の学校卒業後の学びの重要性について理解を深めました。

(6) 講義「地域との連携によるウェルビーイングの実現」

①講師：父親ネットワーク北海道　事務局長　吉　岡　亜希子　氏

②内容：ア、地域と連携した取組の意義（国立市公民館・むくどりホームを事例に）

イ、北海道文教大「チャレンジド教室」の取組

道内外の事例をもとに、障害者の学びを地域に生み出し、持続していくためには、地域との連携が重要であることが説明されました。また、地域の歴史をよく知り、学び合いを作ることのできる、社会教育を学んだ支援者の存在が重要であることが強調されました。

(7) 実践紹介「障害者の生涯学習の実際②」

①実践紹介者：北海道教育庁関係教育局社会教育指導班

②内容：ア、それぞれの地域で行われている実践

（北斗市、新ひだか町、北広島市、名寄市、網走市、別海町）

全道各地で行われている、障害の有無に関わらず参加できる講座の具体的内容、連携体制、合理的配慮等が紹介されました。多くの地域で、福祉や医療の団体と教育委員会等が連携・協働して、地域の教育資源を活用した取組が行われていることが分かりました。

(8) 講義「ニーズを踏まえた事業実施に向けて」

①講師：北海道医療大学　教授　志　水　　幸　氏

②内容：ア、調査研究の内容を分析して　イ、本学で行う地域連携の取組

北海道医療大学が取り組んだ、「高等教育機関における『障がい者の生涯学習』提供モデルの開発」という調査研究の結果を受けて、障害当事者と教員それぞれが捉える学習ニーズの違いや、大学が地域と連携して行う事業の成果や課題について紹介されました。

(9) 実践紹介「当事者が参画する取組の実施に当たって」

①実践紹介者：医療法人稲生会　学びのディレクター　松　井　翔　惟　氏

②内容：ア、社会教育実践としてのみらいつくり大学校

イ、みらいつくり大学校の実践からわかる課題と展望

障害者の学校卒業後の学びの機会を充実するために行う、「みらいつくり大学校」について、取組の経緯・学習内容・実施上の留意事項などが紹介されました。オンラインを活用し、当事者の学習ニーズを尊重した取組にすることの重要性が強調されました。

(10) 講義・演習「障害者の生涯学習支援のあり方について」

①講師：特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター

理事　宮　﨑　隆　志　氏

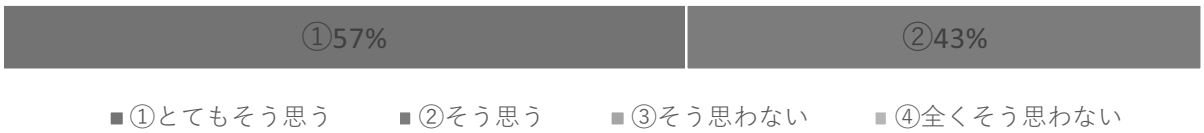
②内容：ア、入門講座のふりかえり　イ、グループワーク　ウ、講評（今後に向けて）

障害者の学びの支援に関わるポイント（視点）を、「個別化」「アクセシビリティ」「評価」などのキーワード化した上で、他の参加者と意見交流を行いました。

参加者は、全５回の講座で学んだ内容を整理することで、今後新たに行う講座やイベントに、どのような工夫や配慮が必要となるのか考える機会となりました。

Ⅲ　アンケート結果

1　本講座（全５回）により、障害者の学びを支える学習支援者やボランティア等の、学びに関する基本的な視点や考え方についての理解を深めることができましたか。

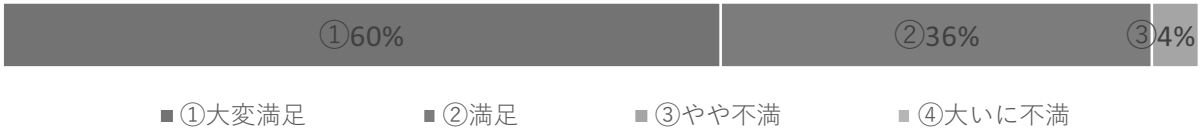



・障害者の学びについての歴史的な経緯や、国・道の目指す方向性なども確認することができた。また、本町で計画中の障害者の生涯学習に関する事業につながる内容で、とても参考になった。
・「基本的な視点」とはいえ、立場や環境の違いなどによって、様々な視点があることに改めて気付かされた。
・各受講者の現在置かれている立場によって、必要な支援に違いがあることに気付くことができた。
・事例が多くてとても分かりやすかった。成人してからの余暇活動の場が沢山あることが分かり、勉強になった。成人後に向けて、どのようなことに取り組んでいくと良いのかなどの手立てをもっと知りたかった。

2　本講座は、各地域における実践や支援方法の工夫を学ぶ機会となりましたか。

・様々な立場からの事例紹介があり、事業を企画する上で、障害者の生涯学習事業全体について、目的から具体的な工夫まで、多くのヒントがあったと思う。
・それぞれの講義内容や話が他とも関連性があり、そこから見える共通項も見えました。地域の特色を活かすことも大事ですが、その地域に住む方との対話を通じて、地域や住民の性質を勘案した取組が関わる人にとって大切なことだと感じた。
・講義の中で色々な取組を知ることができたのは大変勉強になった。今後教員として学校という組織の中で、どんなことができるのか考えていきたい。
・もう少し具体的に最初の一歩が分かると良い。

3　本講座のプログラムの内容、構成はいかがでしたか。




・第１回のオンデマンド講座から第５回のグループワークまで、講義と事例紹介のバランスが良かったと思う。
・講義、実践紹介、振り返りや意見交流など、様々な形態で構成されていた。
・講義だけではなく演習でのグループ討議があり、また実践や当事者の方の話など充実した内容だった。
・概念的な説明、社会の動き、道内各地の取組などバランス良く配置されていて良かった。

4　本講座の講義は参考になりましたか。

■①大変参考になった ■②参考になった ■③あまり参考にならなかった ■④参考にならなかった

・障害者の学びについて、理念や背景、考え方など様々な方から様々な角度で講話をいただくことができた。
・自身の業務や日常生活でも、講義で得た知識が役に立つと感じた。
・志水先生が取り上げた調査については、この調査が全てではないと思うが、当事者の感じているところを知ることができて参考になった。
・宮﨑先生の最後のまとめでは、参加者の意見や実践に対し、具体的に突っ込んだ話しをされていて大変勉強になった。１回目は概念的な説明だけではなく、最終回のような社会的な視点、学問的な視点、実践的な視点からの話しも盛り込んでもらえたら、さらに良かったと感じた。

5　本講座の実践紹介は参考になりましたか。

■①大変参考になった ■②参考になった ■③あまり参考にならなかった ■④参考にならなかった

・特にドイツの事例については参考になった。
・車いすバスケの岩﨑氏の話をもっと聞きたいと思った。その他の発表者の内容も大変学びとなった。小さなことからできることをしていくことが大事だと思った。
・道内、各地域における障害者を対象にした取組や、障害のあるなしに関わらず参加できる活動等、参考になる事例を紹介していただけたのが良かった。
・講師の方々から紹介いただいた事例は、比較的、都会のほうの事例が多かった気がする。私は田舎のほうに住んでいるため、小規模な市町村の事例発表にもう少し時間をさいて、立ち上げの苦労などについて細かく話していただけたら、大変参考になったかもしれない。

6　本講座の演習は充実していましたか。

■①とても充実していた ■②充実していた ■③あまり充実していなかった ■④充実していなかった

・とても良い学習の機会でした。もっと回数が多くても嬉しかった。今回は、好ましい事例、成功した事例が中心でしたが、好ましくない例、失敗例なども出しながら、どうするとより良くなるのか考えるような学習があると、より今後に繋がるように感じた。
・少人数で話を深く聞くことができたことはとても良かった。
・障害者の視点に基づく意見は、日常業務では気が付かないことも多く、とても貴重だと感じた。
・これまでの講義を踏まえてのグループでの話し合い、とても参考になりました。もう少し時間があると良かった。

７　「障害者の生涯学習」についてさらに学びたいこと・知りたいこと等があればお聞かせください。（自由記述）

・実際に障害のある方に、当事者としての話をもっと聞きたい。自分の思いをちゃんと伝えられない知的障害の方などから声を聞きたい。
・今回は教育庁が主催されたが、保健福祉部と連携していただけると、福祉関係者の参加も増え、各自治体において福祉と教育の連携が深まるように感じた。
・学校、団体、関係機関等、障害者の学びの充実・拡大につなげる（つなげた）、より多くの実践について知りたい。
・事業を行う上で、障害者、特に知的障害や精神障害の人との接し方。
・学校が連携して行っている実践例などあれば知りたい。
・今後、継続的に支援者やボランティアが連携することができたら理想的だと思う。事業づくりにり組む人たち、障害者を送り出す人たちで情報交換する機会、学び合う機会があれば良い。

８　その他、感想やお気付きの点があればお聞かせください。（自由記述）

・演習に参加して、参加者の属性に偏りがあるように感じました。関係者は仕事の一部として参加できますが、そうでない人は参加できない時間帯ではあると思います。意識をもっている人だけでなくもっと多様な人たちがこの話を聞けたら良いと思った。
・共生社会の実現に向けて、関係各所が動いていると思うが、そのような動きをイベントや広報によって、さらに発信を強化していただくことを期待する。
・ネイパルの方や行政の方とお話をする機会はないので、演習でお話しすることができたことはとても勉強になり、大変良かったと感じた。特に普段関わっている生徒や卒業生のイメージが強く、自分の視点や考え方が狭くなっていたと感じた。
・良い活動例や大学教授の研究結果、理想の姿を知ることも大事だが、結局、実際の現場感覚で考えたときに、どことどのようにつながって進めていくのかなど、もっと市町村のためになる内容も必要だと感じた。
・今後、道内の障害者向けの生涯教育が前進することを望む。必要なのは、障害者でもできる事業ではなく、障害者が取り組みたい事業である。とにかく動き始めてほしい。健常者以上に障害者は学びを必要としている。また、障害者は健常者と違い、自分から学ぶ手段を獲得するのが苦手なので、社会教育に携わる皆さんには障害者の学びの場を作ってほしい。

文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」
（道教委事業名：障害者の障害学習支援体制構築モデル事業）

# 「障害者の学びの支援入門講座」実施要項

1　目　　的

障害者の学びを支える学習支援者、共に学ぶボランティア等の育成に向けて、有識者による講義や実践紹介等を通して、市町村や民間団体職員等の、障害者の学びに関する基本的な視点や考え方についての理解促進を図る。

2　主　　催

北海道教育委員会

3　期　　日

令和５年 10 月から 11 月までの期間で全５回

※事業成果を高めるため、５回全てに参加（視聴）することを基本とする。

4　開催方法

オンライン形式（Web 会議システム Zoom を使用）での開催

※第１回目をオンデマンド配信とし、参加者へ事前の視聴を促す。

5　参加対象

どなたでも（市町村職員、社会教育施設職員、学校関係者、医療や福祉の関係職員、民間企業及び団体職員、障害当事者の家族、障害者の生涯学習に興味や関心のある方等）

6　申込方法

北海道電子自治体共同システム（電子申請システム）の簡易申請システムによる Web からの直接申込

7　定　　員

50 名（申込人数が定員を超えた場合は、抽選を行う）

8　そ の 他

参加にあたって、インターネットに接続できる環境、電子機器（パソコン、タブレット、スマートフォン等）や Web 会議システム Zoom の利用準備を周知するほか、接続に要する回線通信料は参加者の負担とする。

障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業

# 障害者の生涯学習理解促進キャラバン隊　実施報告書

1　実施要項

(1) 趣　　旨

全道における障害者の生涯学習に関する取組の実態把握や、障害についての理解促進のため、有識者による全道各地での講演、先行的な実践事例の発表及び意見交流等を通して、本事業における社会教育をはじめとした関係者の今後の取組を推進する上での機運醸成や、学びを支援する人材の育成を図る。

(2) 実施管内

石狩・檜山・日高・十勝・上川の５管内

（令和６年度と令和７年度までの３か年で、14 管内全てで実施する予定）

(3) 実施時期

７月～１月

2　実施状況

(1) 石狩開催

・日　時　７月 21 日（金）10:00～12:00

・会　場　恵庭市民会館

・参加者　教育委員会担当職員、社会教育委員など　22 名

・内　容　講　　義「社会的包摂の実現に向けて」

北海道教育庁石狩教育局教育支援課社会教育指導班

講　　義「障害者の生涯学習の重要性」

北海道医療大学　講師　近藤　尚也　氏

(2) 檜山開催

・日　時　10 月 12 日（木）13:00～16:00

・会　場　今金町総合体育館あいきゅーぶ

・参加者　教育委員会担当職員　９名

・内　容　行政説明「道内の現状と道教委の取組」

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

講　　義「障害者の生涯学習の推進に向けて」

医療法人稲生会　学びのディレクター　松井　翔惟　氏

体験活動「ボッチャの体験」

北海道教育庁檜山教育局教育支援課社会教育指導班

(3) 日高開催

・日　時　11 月 25 日（土）10:30～15:10

・会　場　新ひだか町静内体育館

・参　加　者　中学校及び高等学校に在籍する生徒、教育委員会担当職員　35 名

・内　容　体験実技「スポーツと SDGs～障がい者スポーツを知ろう」

講　　義「障害者スポーツ（フライングディスク、ボッチャ）について」

NPO 法人あ・りーさだ　代表理事　正木　英之　氏

(4) 十勝開催

・日　時　12 月 7 日（木）13:30～15:30

・会　場　芽室町中央公民館

・参加者　社会教育委員、教育委員会担当職員　62 名

・内　容　行政説明「道内の現状と道教委の取組」

北海道教育庁十勝教育局教育支援課社会教育指導班

講　　義「誰もが障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会

～持続的な学びと余暇活動充実の重要性～」

北海道教育大学札幌校　教授　安井　友康　氏

実践発表「障害者本人のニーズを踏まえた取組」

医療法人稲生会　学びのディレクター　松井　翔惟　氏

(5) 上川開催

・日　時　1 月 30 日（火）13:00～15:20

・会　場　上川合同庁舎

・参加者　社会教育主事、社会教育施設職員等　34 名

・内　容　行政説明「道内の現状と道教委の取組」

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

講　　義「障害者の生涯学習の推進に向けて」

医療法人稲生会　学びのディレクター　松井　翔惟　氏

2　参加者からの感想

・障害者の学校卒業後における学びの現状及び課題、国や北海道の取組について、講義や実践紹介を通して理解を深めることができた。

・この取組を推進していくことが、共生社会の実現にとって重要であることが分かった。

・先進的な取組をされる実践者からの講義を聞いて、当事者ニーズを踏まえた企画立案や合理的配慮の実施方法について理解を深めることができた。

・ボッチャなど障害者スポーツの体験を初めて行ったが、とても楽しかったので、社会教育事業でも取り組んでみたい。

3　成果と課題

(1) 成果

・有識者や実践者による講義や実践発表を通して、障害者の学校卒業後の学びの充実に向けて、社会教育主事や社会教育委員などが中心となって、地域全体が連携・協力しながら取組を進める意義について理解を深めることができた。

・社会教育行政職員や社会教育委員など、多くの方が参加して、意見を交わすことにより、障害者の生涯学習に対する機運を醸成することができた。

(2) 課題

・取組の輪を拡げていくためにも、社会教育に携わる人材だけでなく、当事者や民間団体（文化団体、社会福祉団体、スポーツ団体）などからの参加を促すことが必要である。

・本取組を通して醸成することのできた機運を、実際に事業の実施に結び付けるため、引き続き市町村教育委員会等への支援が必要である。

文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」
（道教委事業名：障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業）

# 「障害者の生涯学習理解促進キャラバン隊」実施要項

1　目　　的

全道における障害者の生涯学習に関する取組の実態把握や、障害についての理解促進のため、有識者による全道各地での講演、先行的な実践事例の発表及び意見交流等を通して、本事業における社会教育をはじめとした関係者の今後の取組を推進する上での機運醸成や、学びを支援する人材の育成を図る。

2　主　　催

北海道教育委員会

3　期　　日

社会教育課と関係教育局で調整のうえで､設定（７月～１月の間での実施とする）

4　対　　象

市町村、市町村教育委員会、学校、大学、社会教育施設、当事者や民間団体（文化団体、社会福祉団体、スポーツ団体）等

5　内　　容

（例）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 開会 | 講　　演<br>※大学教授等の有識者 | 実践発表<br>※医療法人や社会福祉法人の職員等 | 意見交流 | 開会 |

※概ね２時間程度

6　留意事項

（１）講師選定については、社会教育課社会教育指導係と事前に打合せを行うこと。
　なお、社会教育課で開催する地域連携コンソーシアム会議構成員等から人選を行うことを基本とするが、各地域の状況に応じて、それ以外の者を選定することも可能とする。

（２）会場の確保や管内市町村等への事業実施の周知、当日の運営は、実施会場のある市町村を所管する教育局が実施団体と協力して行うこと。

別紙様式６
障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業「スタートアップ支援学習会」

# スタートアップ支援学習会　実施報告書

| 施設名 | 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川 |
|---|---|

１　実施概要

・目　　的：　学校卒業後の障害者の学びの機会拡充に向けた取組の開始や拡充を検討する施設等の職員が、必要な専門的知識や技術について学び、取組の実施に必要な事項を理解する機会とする。

・日　　時：令和５年 11 月 16 日(木)　13:00～15:30

・会　　場：北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川　中研修室・体育館

・対　　象：ネイパル深川および近隣社会教育施設職員、市町村教育委員会職員、障害者の生涯学習支援に携わる方

・参 加 者：８名

２　内容や様子

・　空知教育局教育支援課の斉藤萌社会教育主事より北海道教育委員会が推進する「障害者の生涯学習」が目指すことや具体的な取組内容についての話を聞き、参加者は「障害者の生涯学習」をめぐる課題について確認、整理した。

・　HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS の齊藤雄大代表より、齊藤代表自身のアメリカ留学の経験の話を交え、アダプテッドスポーツの将来性・方向性について講義を受けた。講義後には車いすバスケットボールの体験を実施。初めに車いすの操作を教わり、操作に慣れたところで２チームに分かれ、実際に車いすバスケットボールのゲームを体験した。

３　参加者からの感想

・　今後、社会教育の立場から率先して障害者の生涯学習の場や機会の提供をしていくことが大切だと強く感じた。

・　事業を企画する際のヒントとなる気づきがたくさんあった。

・　事業にどう繋げていくか、またアウトリーチなどでもできることをやってみたいと思った。

・　「障害がある人もない人も一緒に活動できること」と考えた際に事業の内容について考える視野が広がった。

４　学習会の内容を生かした、その後の取組

・　今後も、職員の研修を重ね、「障害者の生涯学習」を念頭においた事業を企画し、障害者の生涯学習の場や機会の提供をしていく。

文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」
（道教委事業名：障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業）

# 「スタートアップ支援学習会」実施要項準則

1　目　　的
　学校卒業後の障害者の学びの機会拡充に向けた取組の開始や拡充を検討する団体の職員が、必要な専門的知識や技術について学ぶ学習会や、取組を実施する上での悩みを解決する相談機会を設けることで、団体等のスタートアップを支援する。

2　主　　催
　北海道教育委員会

3　主　　管
　関係教育局

4　期　　日
　関係教育局で設定（原則、７月～12月の間での開催とする）

5　参加対象
　障害者の生涯学習に係る事業等を実施（予定）する市町村や団体の職員等
　（市町村、市町村教育委員会、学校、大学、社会教育施設、当事者や民間団体等）

6　内　　容
（例）

| | 説　　明 | 講　　義 | 相談・助言 |
|---|---|---|---|
| 開会 | 「道教委における障害者の生涯学習の取組について」<br><br>説明：各教育局教育支援課<br>社会教育指導班 | 「当事者ニーズを踏まえた事業企画・運営について」<br><br>講師：有識者や実践者 | 「事業を実施する際の合理的配慮について」<br><br>助言：有識者や実践者 |

※概ね１～２時間程度

7　提出書類
（１）別紙様式２「実施計画書」を、実施予定日の３週間前までに提出すること。
（２）別紙様式４「経費計画書」を、配当希望日の３週間前までに提出すること。
（３）別紙様式６「実施報告書」を、事業実施後、３週間以内に提出すること。

8　留意事項
（１）「多様な主体の連携による学習プログラム構築事業」実施にあたり、事前打合せの機会等に本学習会を開催し、関係者の障害者の生涯学習に対する共通理解を深めること。
（２）市町村教育委員会等での、障害者が参加可能な生涯学習事業実施の検討機会や、今後の実施へ向けた事前の研修機会としても、積極的に活用すること。
（３）講師選定においては、社会教育課社会教育指導係と事前に打合せを行うこと。
（４）会場の確保や遠隔会議の準備は、主管する教育局が関係団体等と協力して行うこと。

| 令和５年度社会教育主事講習プログラム | 生涯学習支援論 | 時間 | 30 時間 | 単位 | 2 | 形態 | 講義・演習<br>事例研究 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

【科目概要】
　住民の自立と地域社会への参画意欲を喚起するため、学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法の理解、学習プログラムの設計、プレゼンテーションの基礎、参加型学習の実際とファシリテーション技法等の事項について、講義や演習を通して学びを深める。
　道外の大学の研究者や北海道で実践的な学びを提供している民間団体、国立教育施設経験者など多才な講師により、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る。

【ねらい】
①発達特性等を踏まえた学習支援に関する理論や学習支援の方法を理解する。
②学習者理解を深めるために、カウンセリングマインドについて体験的に学び、知識及び技術を習得する。
③参加型学習の意義や理論を理解し、参加型学習を運営するためのファシリテーションの知識及び技術を習得する。

| | 講座 | 時数 | 目標 | 担当講師 |
|---|---|---|---|---|
| 学習支援に関する教育理論 | 生涯発達から見た学習者の特性<br>成人期・高齢期の教育理論<br>【講義】 | 3 | 乳幼児期、児童期、思春期、青年期等、生涯各期の発達段階と発達課題から導かれる学習課題について理解する。<br>成人・高齢者の発達特性について理解し、学習者に応じた学習内容や学習支援方法等があることを理解する。 | 聖学院大学<br>副学長　小池　茂子 |
| | 特別な支援を要する人への学習支援<br>【講義・事例研究】 | 3 | 特別な支援を要する人々の学習支援の方法について理解し、学習者に応じた学習内容や学習支援方法等があることを理解する。 | 神戸大学大学院<br>教授　津田　英二<br>医療法人稲生会みらいつくり研究所学びのディレクター<br>松井　翔惟 |
| 効果的な学習支援方法 | 学習支援の原理<br>学習支援の方法・形態<br>【講義】 | 1.5 | 社会教育と学校教育との差異、生涯学習の実践の中で培われた学習支援など、生涯学習の各領域における学習支援の原理について理解する。<br>多様な学習者について、集合学習や集団学習の特性を踏まえながら、教育効果が高まるような環境作りを行うことの重要性を理解する。 | 國學院大學<br>准教授　青木　康太朗 |
| | 学習者理解とカウンセリングマインド<br>【講義】 | 3 | カウンセリングマインドをもって学習者と接することの重要性を理解し、その基本的な考え方や手法を理解する。 | 北海道教育大学札幌校<br>准教授　益子　洋人 |
| | ＩＣＴを活用した学習支援<br>【講義】 | 1.5 | ＩＣＴを活用した学習支援の特性や方法を理解する。 | 関東学院大学国際文化学部<br>学部長（教授）吉田 広毅 |
| | プレゼンテーションの基礎<br>【講義】 | 3 | 様々な事業や施策の説明に必要なプレゼンテーションの方法や効果について理解するとともに、基礎的な技術を身に付ける。 | 一般社団法人プレゼンテーション検定協会<br>代表理事　脇谷　聖美 |
| 学習プログラムの編成 | 学習プログラムの設計・運営<br>プログラム編成の視点<br>【講義・演習】 | 4.5 | 住民の学習要求の把握や社会の課題に即した、教育計画とプログラムの構築について理解する。<br>学習プログラムの立案について、最適な学習内容や提示、順序立て等を多角的に考えることの重要性を理解する。 | 北海道教育庁社会教育課<br>主査　国枝　知 |
| | 学習支援方法としての参加型学習<br>【講義】 | 1.5 | 参加型学習の意義やねらい、参加型学習の種類とその特性を理解するとともに、参加型学習を運営するために必要なファシリテーション能力について理解する。 | 國學院大學<br>准教授　青木　康太朗 |
| 参加型学習の実際とファシリテーション技法 | 参加型学習の実際とファシリテーション技法<br>【講義・演習】 | 9 | ファシリテーターの役割や手法を理解するとともに、学習者同士の関係づくり、集団づくりにも効果があることを理解する。<br>様々な参加型学習を通した教育効果や手法について理解する。 | GOOD ? WORKSHOP<br>代表　溝渕　清彦<br>特定非営利活動法人きたのわ<br>会員　本間　玲子 |

取組７

## 障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築

障害者の生涯学習を一層推進する上で、障害者本人やその家族からは、学校卒業後の学びの情報を入手することが困難との指摘が寄せられている。道教委では、生涯学習推進センターの機能を有効活用する方策の検討に加えて、市町村教委に対する、情報の収集・提供の促進について働きかけを強化した。

### １　北海道教育推進計画に、「障害者の生涯学習推進」に関する項目の位置付け

○令和５年３月に策定した「北海道教育推進計画」（令和５～９年度）において、「障がい者の学習機会に関する実態把握をしている市町村の割合」を推進指標に設定し、各地域における、障害者の生涯学習活動に関する情報把握を推進することとした。

### ２　障害者の生涯学習活動に関する情報の収集・把握に関する働きかけ

○北海道教育推進計画の指標達成や、今後の取組の基礎資料を得ることを目的に、「生涯学習推進体制の整備状況調査」を実施した。

・教育委員会の域内で住民が参加できる障害者の生涯学習活動に関する情報

| | |
|---|---|
| 収集・把握している | 27.9%（50 市町村） |
| 収集・把握していない | 72.1%（129 市町村） |

・上記調査項目で、「把握している」と回答した場合の内容」（複数回答可）

| | |
|---|---|
| 教育委員会の主催事業 | 15.1%（27 市町村） |
| 首長部局の主催事業 | 14.0%（25 市町村） |
| 教育委員会が後援・関与する事業 | 10.6%（19 市町村） |
| 国が行う事業 | 2.2%（ 4 市町村） |
| 都道府県が行う事業 | 7.3%（13 市町村） |
| 特別支援学校等の学校による事業 | 1.1%（ 2 市町村） |
| その他 | 10.6%（19 市町村） |

○啓発用チラシを用いた、市町村教育委員会訪問や障害者の生涯学習理解促進キャラバン隊において働きかけを行った。

### ３　生涯学習推進センターにおける相談支援や情報収集・提供体制の活用

○生涯学習推進センターの相談支援や情報収集・提供体制を活用した仕組みの構築を関係機関と連携しながら構築するための検討を行った。

○その在り方を検討するため、教育だけではなく、福祉・医療・労働分野へのヒアリング調査を継続的に実施した。

# 障害者の生涯学習の充実に向けて

平成26年の障害者権利条約の批准等も踏まえ、誰もが障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会の実現に向けて、地域における持続的な学びの場を整備することが求められています。

## 道内各地の現状と課題

道教委では、令和３年度から２か年で、全道178市町村の社会教育担当者等を対象とした研究協議会を開催し、障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例について説明するとともに、障害の有無に関わらず、共に学ぶ場づくりを進めるための協議を行いました。その結果、取組の重要性への理解は進んでいるものの、実施をする上での課題も浮き彫りとなりました。

専門知識を持たない職員ばかりで、何から開始して良いのか分からない

障害者がどのような学習を希望しているのか、ニーズを掴みかねている

医療、福祉、学校、企業等、多様な団体との協力体制の構築が必要である

## 学びたいのに、学べない方が沢山います

文部科学省が平成30年度に行った、「学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因に関する調査研究」によると、次のような調査結果が出ています。

- 「一緒に学習する友人、仲間がいない」71.7%
- 「学ぼうとする障害者に対する社会の理解がない」66.3%
- 「知りたいことを学ぶための場や学習プログラムが身近にない」67.2%

また、道教委が主催する地域連携コンソーシアム会議では、学校卒業後に障害者ご本人が学びの場に参加するため、市町村教委による情報収集や情報発信の必要性についても議論となっています。

## 新たな取組に向けて、道教委の支援

道教委では、道内各地の現状と課題を踏まえて、令和５年度より、“障害者の学びを支援する人材の養成”や“モデルプログラムの開発”に加えて、“市町村の新たな取組へスタートアップ支援”も実施しています。

新たに取組を開始する場合や既存の取組を拡充する場合には、お近くの教育局にご連絡ください。

取組８

## 読書や図書館等の利用や意思疎通に困難を伴う障害者の支援に関する取組の実施

読書バリアフリー法が成立し、障害者の読書や図書館等の利用に対する関心が高まっており、図書館で勤務する職員を対象とした研修の実施に加えて、地域住民の理解を促進するための啓発イベントを開催することで、障害者の読書環境の整備に向けた関係者や地域住民の理解を促進した。

### １　北海道立図書館による各市町村図書館等における障害者の支援に関する研修

○令和５年度第４回網走ブロック公共図書館職員研修会（令和５年 11 月 22 日）
- ・テーマ　「障害者向けサービスについて」
- ・講　師　北海道立図書館総務企画部企画支援課長　　西　岡　祐　子

○令和５年度根室・釧路管内図書館協議会地方研究集会（令和５年 11 月 30 日）
- ・研修１　「高齢の方や障がいのある方への図書館サービスのあり方」
- ・講　師　北海道立図書館総務企画部企画支援課主任　宮　本　　浩

○令和５年度全道図書館専門研修〈利用者サービス〉（令和６年１月 26 日）
- ・テーマ　「図書館職員のコミュ力アップ！」
- ・講　演　「『私と図書館』リレートーク～障がい当事者の声を聞く～」
- ・講　師　障がい当事者講師の会すぷりんぐ会員（３名）

※上記の参加者は、公立図書館職員、市町村教育委員会職員、学校司書、教諭等で、３つの研修会をあわせて、79 名

### ２　学校図書館担当職員に対する研修

○学校図書館の利用促進に向けて、特別支援教育の現状と課題、障害者の読書機会を充実させる上での合理的な配慮について研修を実施
- ・研修会名　令和５年度学校図書館担当職員講習
- ・テ ー マ　「特別支援教育の現状と課題」
- ・日　　時　令和５年８月 28 日（月）
- ・講　　師　専修大学文学部教授、放送大学客員教授　野口武悟氏
- ・参　　加　学校図書館担当職員、学校司書、市町村教育委員会職員等 54 名
- ・内　　容　特別支援教育の現状・歴史・潮流、特別支援教育の教育内容・教育課程編成、支援ニーズに対応できる学校図書館づくり

### ３　アクセシブルな書籍の充実や活用に向けた啓発

○読書バリアフリー法の成立を踏まえて、地域住民が参加する「北海道子どもの読書活動応援イベント」等の機会を活用して、点字書籍や拡大図書等のアクセシブルな書籍の活用について啓発する機会を設けた。

○市町村教育委員会職員などが参加する「障害者の生涯学習理解促進キャラバン隊」においても、アクセシブルな書籍等の量的拡充や質の向上について説明を行った。

# 令和５年度学校図書館担当職員講習　実施要項

## １　目　的

学校図書館法第６条第１項及び第２項に基づき、学校図書館の利活用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員（学校司書）の養成に係る基礎講習を実施し配置促進に寄与するとともに、本道における学校図書館を担当する職員等の資質向上を図る。

## ２　主　催

北海道教育委員会

## ３　対　象

道内在住の学校司書、学校図書館を担当する職員（事務職員、実習助手等）・支援員等、図書館ボランティア、ＰＴＡ等

## ４　定　員

100 名程度

## ５　講習期間及び日程等

(1) 令和５年（2023 年）７月 26 日～10 月 19 日（各講義実施日約２週間後から、順次オンデマンド配信(令和６年１月末まで受講可能)）

(2) 日　程　※　詳細は別紙１講習概要で御確認ください。

| 実施日 | 講　習　名<br>【時間数】 | 内　容 |
|---|---|---|
| ７／26（水）、<br>／31（月） | Ⅰ　学校図書館基礎講習<br>【６時間】 | 1　学校図書館の理念と教育的意義<br>2　教育行政と学校図書館 |
| 省　略 | | |
| ８／22（火）、<br>／28（月） | Ⅲ　学校図書館担当職員が知っておきたい学校教育<br>【４時間】 | 1　学校教育の意義と目標、学習指導要領等<br>2　児童生徒の心身の発達と学習過程　Ａ（乳幼児～小学生）又はＢ（中学生～高校生）<br>3　特別支援教育の現状と課題<br>・発達障害の理解と支援<br>・特別支援教育をめぐる関係法規<br>・インクルーシブ教育<br>4　現代の学校と地域課題 |
| ９／12（火）、<br>／15（金）、<br>／21（木） | Ⅳ　学校図書館サービス力向上講習<br>【６時間】 | 1,2　学校図書館の環境整備①②、広報・渉外活動<br>3,4　ガイダンス、レファレンス①②<br>5　児童生徒及び教職員への各種支援 |
| 省　略 | | |

※オンデマンド配信:Zoom 実施日約２週間後～1 月末迄

# 令和５年度全道図書館専門研修〈利用者サービス〉開催要項

**1　趣　旨**

図書館（室）は多様な利用者、多様な利用方法への対応が求められています。誰もが満足できるサービスを提供するためには、図書館を利用する方々と職員、または職員同士が、良好なコミュニケーションをはかることが必要です。本研修では、「相手の立場になって考える」という視点から、サービス向上のためにできる取組と心構えを学びます。

**2　テーマ**　「図書館職員のコミュ力（りょく）アップ！」

**3　主　催**　北海道図書館振興協議会、北海道立図書館

**4　日　時**　令和６年（2024 年）１月 26 日（金）　９時 50 分から 16 時 20 分まで

**5　開催方法**　オンライン（Zoom ミーティング）

**6　対象・定員**

道内公立図書館（公民館図書室）職員、市町村教育委員会職員、学校司書、司書教諭、ほか学校図書館の運営等に携わる方

定員：30 名

※一機関で複数の方が受講される場合は、一人に一台ずつ端末をご準備いただくようご協力をお願いします。ただし、定員を超えた場合は、一機関一端末等の調整を行う場合があります。

**7　参加条件**

（１）Zoom に接続可能なネットワーク環境（有線 LAN 又は無線 WiFi）があること。
（２）パソコン、タブレット、スマートフォン等 Zoom が使える機器**(カメラ・マイクが使用できること)**があること。
（３）Zoom の招待を受け取るメールアドレスがあること。
（４）パソコン等の**カメラ・マイクを使用した演習に集中できる環境が用意できること**。

**8　内　容**　別記「日程」のとおり

**9　申込み**

次のアドレスまたは二次元コードから指定のフォームで手続きをお願いします。
（注：電話・ファクシミリ・メールによる申込受付は行いません。）

https://forms.office.com/r/Xf2AVGdtMX

**申込期限　令和６年（2024 年）１月 11 日（木）**

**10　参加費**

無料（北海道図書館振興協議会非会員市町村の職員は、資料代として 1,000 円が必要です。）

**11　その他**

（１）Zoom ミーティングの ID は、申込みの〆切後、受講が決定した方にお知らせします。
（２）**録画・録音はできません。アーカイブ配信も行いませんのでご了承ください。**
（３）開催要項及び申込フォームのリンクは、図書館ポータルにも掲載しています。
　　北海道立図書館ホームページ＞図書館ポータル＞研修

**12　問合せ・申込先**

北海道図書館振興協議会事務局（北海道立図書館総務企画部企画支援課　担当：足立、畑中）
〒069-0834　江別市文京台東町 41 番地
電話（代表）011-386-8521　　ＦＡＸ　011-386-6906
電子メール　shienka@library.pref.hokkaido.jp

令和５年度全道図書館専門研修〈利用者サービス〉　**オンライン**

「図書館職員のコミュ力（りょく）アップ！」

# 日　程

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| ９:30～ | 受　付（Zoom ミーティング入室開始） |
| ９:50～10:00 | 開　会 |
| 10:00～10:45 | **講演「『私と図書館』リレートーク　～障がい当事者の声を聞く～」**<br><br>講師：障がい当事者講師の会すぷりんぐ会員　今田　雅子　氏<br>高橋　めぐみ　氏<br>三井　愛子　氏<br><br>■すぷりんぐとは（ホームページから抜粋）<br>札幌市社会福祉協議会「障がい者講師養成講座」を修了した有志で設立したボランティア団体です。<br>たとえ、病気や障害を負っても、周囲の理解があれば、共に歩んで行くことができる――。私達、障害当事者講師の会すぷりんぐは、今、すでに病気や障害を持って日々暮らしている生の声を社会にお伝えするため誕生しました。 |
| 10:45～10:55 | 質疑応答 |
| 10:55～11:05 | 休憩 |
| 11:05～12:00 | **グループ協議・情報交換**<br><br>講演を受けて、各館の障がい者サービスに関する現状や問題点を振り返り、今後のより良いサービスのあり方を考えます。<br>※ブレイクアウトルーム機能を利用 |
| 12:00～13:00 | 昼休み |
| 13:00～13:15 | Zoom ミーティング再入室 |
| 13:15～16:15 | **講義・演習「短時間で信頼関係を築く　ANA 流ビジネスマナー研修」**<br><br>**・オリエンテーション**<br>**・「相手」との信頼関係を築くために**<br>**・マナーの実践 ～４つの基本～**<br>**・まとめ ～成長し続けるために**<br><br>講師：ANA ビジネスソリューション株式会社専属講師　　森　正美　氏<br><br>ANA の客室乗務員が機内で実践している取り組みをベースに、マインドとスキルの両面から「相手と短時間で信頼関係を築く」ことのできるメソッドを実践的に学びます。 |
| 16:15～16:20 | 閉　会 |

障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業

# 北海道子どもの読書活動応援イベント　実施報告書

１　事業概要

・目　　的：　北海道子どもの読書活動推進計画〈第五次計画〉に基づき、北海道のすべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、家庭・地域・学校等の連携を進め、積極的にその環境整備を図るとともに、障害の有無に関わらず、自身の課題解決や学びのための自発的な読書活動を行うことができるよう、読書活動の普及啓発を行う。

・連携団体：北海道立図書館（共催）、石狩市民図書館（協力）、読み聞かせボランティア子っ子の会（協力）

・日　　時：令和５年 11 月３日（金）10：00～15：00

・会　　場：札幌駅前通地下広場　北大通交差点広場【西】

・対　　象：幼児から大人まで

・参 加 者：約 300 名

２　内容や活動の様子

（１）北海道青少年のための 200 冊の紹介

道内のプロスポーツチームに所属している 20 名の選手が動画でお勧めしている本を展示。手に取って読んでいる方が多かった。

（２）バリアフリー図書の紹介

布絵本や点字絵本など、小さい子どもから大人まで手に取って読んでいる方が多く見られた。その場で読み聞かせをしている親子もいた。

（３）缶バッジづくり体験、しおりづくり体験

誰でも簡単に制作できる体験コーナー。多くの子どもが参加した。

（４）絵本の読み聞かせ

石狩市民図書館で活動をしている「読み聞かせボランティア子っ子の会」の協力のもと、音楽や歌を交えての読み聞かせを実施。幼児から大人まで様々な年齢層が参加した。

（５）高校生ビブリオバトル

石狩管内の高校生４名が出場した。会場の観覧者が審査員となりチャンプ本を選出。

（６）北海道立図書館利用登録会

アクセシブルな電子図書も利用できる道立図書館の利用登録とデモ体験会。

３　運営上の留意事項（実施した配慮や工夫など）

・車椅子の方でも通りやすいよう会場のレイアウトを工夫した。

・バリアフリー図書のうち布絵本については、子どもの目線に合わせて、低い位置で展示した。

・読み聞かせは、会場の照明を明るく、音声はスピーカーで大きくして、参加者が見やすく聞きやすい環境づくりを工夫した。

## 4　参加者からの感想

・読み聞かせでは、絵本の読み聞かせだけでなく、音楽や歌、エプロンを舞台にした人形劇など、楽しい時間を過ごすことができた。
・点字のついた絵本を初めて見た。障害の有無に関わらず誰でも楽しめる工夫がされていた。
・普段本を読まないが、高校生ビブリオバトルに出場してみて、本の良さについて改めて知ることができた。

## 5　成果と課題

■成果

・札幌市地下歩行空間を会場とすることで、誰でも気軽に立ち寄ることができた。
・バリアフリー図書を展示し、実際に触れることで、子どもから大人まで、誰でも点字図書や布絵本などについて理解を深めることができた。
・道立図書館の利用登録会を実施することで、江別市まで行かなくても電子図書の利用登録をすることができた。

■課題

・高校生の不読率が高いという現状が続いており、ビブリオバトルに参加する高校生が少なかった。読書活動の活性化のためには、さらなる継続的な取組が必要であり、今後もビブリオバトルの効果について普及・啓発を図る必要がある。
・当日に障害者の参加数を正確に把握することが、困難だった。また、社会福祉協議会など、障害者支援に関わる団体に参加を促すなど、働きかけが必要である。